

地域と人が多彩に輝く
「おおだて暮らしを楽しむ」
基本計画



地域と人が多彩に輝く「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画 (大館版CCRC基本計画)

「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画の主眼

「おおだて暮らし」の魅力を充実させることで、若年層を含むあらゆる世代の健康長寿、生涯活躍を実現し、定住促進と移住者の獲得を目指す。

基本的考え方 P18

地域コミュニティを単位とした「暮らし」と「文化」の魅力充実(P18)

- 小学校区を想定する地域コミュニティを単位とする。
- 「地域応援プラン」や「百花繚乱作戦」等で、地域文化を次の世代に伝え、発展させる取組を支援。
- あらゆる世代が大館に誇りと愛着を持ち、暮らし続けることができるような地域づくりを進める。

地域コミュニティの「10年後」を展望(P22)

- 現在地域づくりを担っている世代も、10年後、15年後には、年齢を重ねることにより、日常生活の維持や伝統文化の継承に支障をきたすことが想定される。
- まずは、地域の10年後を考えることから始めて、着実に課題解決に取り組んでいく。

「おおだて暮らし」の充実と「大館びと」づくりの推進(P25)

- 「おおだて暮らし」の充実とは、市民生活の充実。
- 「おおだて暮らし」の技を持った人(=大館びと)を育て、増やしていく。

重点プロジェクト P34

地域の「10年プラン」づくり(P34)

- 地域コミュニティ(小学校区)ごとに、自分たちの地域の10年後を展望する計画「10年プラン」立案。
- 地域住民、事業者、学校関係者、児童や学生等、多世代でプラン策定。
- 当面は、先行エリアとして地域活性化活動が活発な農山村地域(山田地区、釈迦内地域)を中心に進めていく。
- 10年後を展望し、各地域ならではの豊かな生活・文化に必要な担い手(仲間)を確保・育成していく。

地域の仲間づくり



しごとの仲間づくり



仲間を繋ぐ仕組み



しごとづくりプロジェクト(P36)

- 定住の基盤は仕事であり、IT関連など「まちなか」での「新しいしごと」づくり、秋田職能短大と連携した技術支援を行う。
- 都市利便の高い「まちなか」に拠点を設け、仕事面や生活面の相談、支援の受け皿とする。
- 学生と企業、個人や事業者間のネットワークづくりを支援。特に地元出身の在京学生・事業者と市内の仕事を繋ぐ。
- 本市の強みを魅力とを感じる子育て世代への情報発信を積極的に行う。

「おおだて暮らす会」、「おおだて暮らしマイスター」の立ち上げ(P36)

- 地域での暮らしの魅力を、確認し、共有し、さらに磨き上げ、助け合う「おおだて暮らす会」の立ち上げ、NPO化を検討する。
- 様々な技を持つ人が市民にその技を伝えていく仕組みを「おおだて暮らしマイスター」とし、民間主体で運営していくことを目指す。

目 次

はじめに	1
「大館版 CCRC 整備構想」	
■ 第 1 章 大館市における CCRC の目的	2
□ 1 地方創生と「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」構想の基本的考え方	2
□ 2 大館市における CCRC 導入の目的	6
■ 第 2 章 大館版 CCRC のコンセプトと目指す将来像	8
□ 1 大館版 CCRC のコンセプト	8
□ 2 大館版 CCRC が目指す将来像	12
(1) 国の「生涯活躍のまち」構想に求められる要件への適用	12
(2) 大館版 CCRC の展開タイプ	15
「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画	
■ 第 3 章 「おおだて暮らし」の魅力充実への取り組み方策	18
□ 1 基本的考え方	18
(1) 地域コミュニティを単位とした「暮らし」と「文化」の魅力充実	18
(2) 地域コミュニティの「10 年後」を展望	22
(3) 「おおだて暮らし」の充実と「大館びと」づくりの推進	25
□ 2 「おおだて暮らし」の魅力充実への取り組みの進め方	27
(1) 大館市のまちづくりの一環としての事業推進	27
(2) 施策間連携による包括的なまちづくりの推進	28
(3) 民間（市民・産業界）の主体的な取り組みの推進と支援	30
(4) ソフトプログラム事業の先行	30
(5) 「農山村地域」を先行エリアとした「まちなか」との連携	31
(6) 推進体制の構築	33
□ 3 重点プロジェクト	34
(1) 地域の「10 年プラン」の策定支援	34
(2) しごとづくりプロジェクト	36
(3) 「おおだて暮らしす会」、「おおだて暮らしマイスター」の立ち上げ	36
□ 4 当面の進め方	38
■ これまでの動き	39
■ 参考資料	41

はじめに

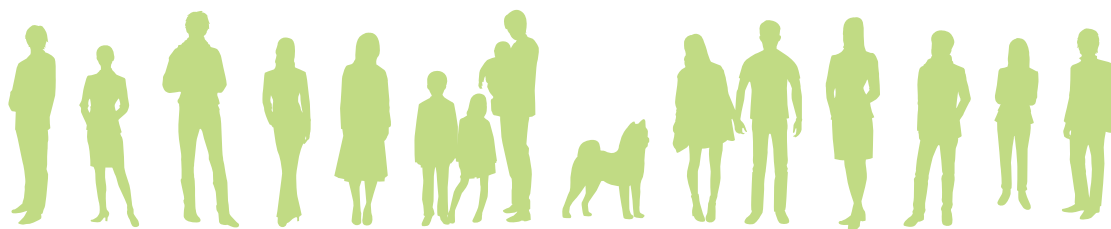
大館市(以下、「本市」とします。)は、平成17年の合併(比内町、田代町の編入)によって、現在の市域が形成されました。合併当時の人口は82,504人でしたが、少子高齢化の加速や若年層を中心とした市外流出を要因に、以降年間1,000人規模の人口減少が続いており、平成29年12月末時点で73,632人となっています。

また、市人口ビジョンでは、平成52年には56,043人、平成72年には45,498人になるものと推計しています。

人口減少は、消費の縮小、労働力の低下、地域コミュニティの衰退等、社会経済的に大きな影響を及ぼすものであり、本市ではこの傾向に歯止めをかけるべく分野横断的に取り組みを進めているところです。そのような中、当面避けられない人口減少社会にあっても、市民が安全・安心に暮らすことができるよう、持続可能な地域づくりを進めていかなければなりません。

「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画(以下、「本計画」とします。)は、国が示している「生涯活躍のまち(日本版CCRC¹)構想」の趣旨を確保しながら、本市の地域特性や強みを活かした「大館版CCRC」としての推進計画を取りまとめたものです。

本書では、市民が主体的に自分たちの地域を考え、魅力ある「おおだて暮らし」を実現・持続していくことができるように、第1章と第2章では、大館版CCRC整備構想のダイジェストを掲載しており、第3章から「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画を掲載しています。



¹CCRC: Continuing Care Retirement Communityの略称。高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービスを受けながら生涯学習や社会活動等に参加する共同体のこと。

第1章 大館市におけるCCRCの目的

1 地方創生と「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」の基本的考え方

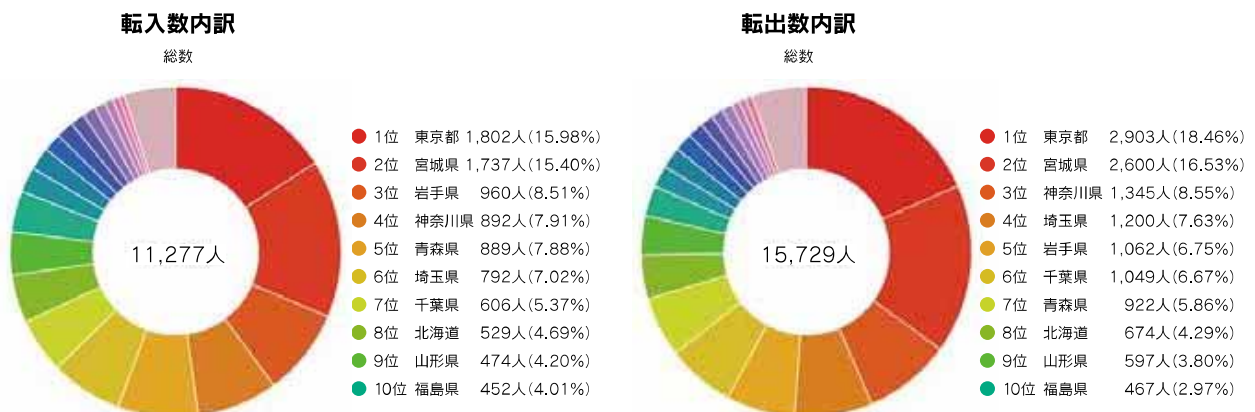
我が国における人口減少と地域経済縮小の克服に向けて、国では、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」とします。）」を策定し、①東京一極集中の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決に取り組むこととしました。

総合戦略では、地方における様々な政策による効果を集約し、取り組みを着実に進めるため以下の4つを政策の基本目標として設定しています。

- 基本目標① 地方における安定した雇用を創出する
- 基本目標② 地方への新しい人の流れをつくる
- 基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する

基本目標②「地方への新しいひとの流れをつくる」において、「地方移住の推進」が掲げられ、主な政策の一つとして「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」の検討が打ち出されています。

【(参考)秋田県 2016年 転入数・転出数内訳】



出典：RESAS（総務省「住民基本台帳人口移動報告」）

(参考) まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と日本版CCRCの位置付け

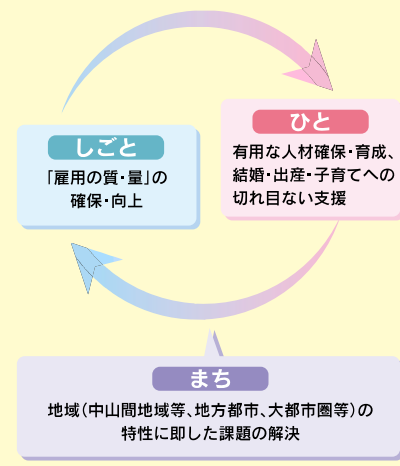
総合戦略

基本的な考え方

- ① 人口減少と地域経済縮小の克服
- ② まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

「しごと」と「ひと」の好循環、
それを支える「まち」の活性化



政策の企画・実行に当たっての基本方針

① 政策 5 原則

従来の施策（縦割り、全国一律、バラマキ、表面的、短期的）の検証を踏まえ、政策 5 原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）に基づき施策展開。

② 国と地方の取組体制と PDCA の整備

国と地方公共団体ともに、5 か年の戦略を策定・実行する体制を整え、アウトカム指標を原則とした KPI で検証・改善する仕組みを確立。

今後の施策の方向

基本目標 ① 地方における安定した雇用を創出する

基本目標 ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標 ② 地方への新しいひとの流れをつくる

基本目標 ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

基本目標

現状で年間 10 万人超の東京圏への人口流入に歯止めをかけ、
東京圏と地方の人口の転出入を均衡させる

- 2020年までに、東京圏から地方への転出を4万人増加。
- 2020年までに、地方から東京圏への転入を6万人減少。

主な重要業績評価指標 (KPI)

- 年間移住あっせん件数11,000件
- 企業の地方拠点強化の件数を2020年までの5年間で7,500件増加
- 新規学卒者の県内就職割合を平均80%

政策パッケージ

地方移住の推進

- ◎地方移住希望者への支援体制
- ◎地方居住の本格推進
- ◎「日本版CCRC」の検討
- ◎「地域おこし協力隊」と「田舎で働き隊」の統合拡充

企業の地方拠点強化、
企業等における地方採用・就労の拡大

- ◎企業の地方拠点の強化等
- ◎政府関係機関の地方移転
- ◎遠隔勤務
(サテライトオフィス、テレワークの促進)

地方大学等創生5か年戦略

- ◎知の拠点としての地方大学強化プラン
- ◎地元学生定着促進プラン
- ◎地域人材育成プラン

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

国が示している「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」構想は、『東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり』を目指すものとしています。

単に高齢者のための福祉施設を整備するという発想ではなく、中高年齢者が主体となって、地域社会に溶け込みながら健康でアクティブな生活を送ることができるコミュニティづくり・まちづくりを行うものとしています。

構想の意義

①中高年齢者の希望の実現

中高年齢者においては、高齢期を「第二の人生」と位置付け、それぞれの人生のライフステージに応じた新たな暮らし方や住み方を求めて、健康でアクティブな生活を送りたいという希望が強い。こうした希望を実現し、人生を充実したものにするための機会を提供する取り組みとして、大きな意義を有している。

ただし、あくまでも住み替えの意向のある高齢者の選択肢の一つとして推進するものであり、意向に反して移住を進めるものではない。

②地方へのひとの流れの推進

東京圏への人口集中が進む中で、高齢者の地方移住は、地方への新しい人の流れをつくる動きの一つとして期待されている。移住者の積極的な社会活動の参画によって、地方の活性化に資することを目指している。

また、高齢者の移住により地方の医療介護サービスの活用や雇用の維持が図れる点で意義が大きい。

東京圏からの移住にとどまらず、地方の高齢者についても、医療介護サービスの確保等の観点から住み替えを行い、「まちなか」居住や集住化を推進することも有用と言える。

③東京圏の高齢化問題への対応

東京圏は今後急速に高齢化が進み、医療介護ニーズが急増することから、これに対応する医療介護サービスの確保が大きな課題となってくる。東京圏においては、医療介護人材の不足が深刻化するおそれがあり、このまま推移すれば、地方の人口流出に拍車がかかる可能性が高い。こうした状況下で、東京圏の高齢者に対して、地方移住により必要な医療介護サービスを利用するという選択肢を提供する点で、東京圏の高齢化問題への対応方策として意義がある。

構想のコンセプト

- ① 東京圏をはじめ地域の中高齢者の希望に応じた地方や「まちなか」などへの移住支援
- ② 「健康でアクティブな生活」の実現
- ③ 地域住民（多世代）との協働促進
- ④ 「継続的なケア」の確保
- ⑤ IT活用などによる効率的なサービス提供
- ⑥ 入居者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営
- ⑦ 構想の実現に向けた多様な支援

構想が目指す基本方向

① 東京圏をはじめ地域の中高齢者の希望に応じた地方や「まちなか」などへの移住支援

移住希望者に対してきめ細やかな支援を行う。東京圏等から地方へといった広域的な移動を伴う移住のみならず、「まちなか」への転居など地域内での移動を伴う取組も想定

② 「健康でアクティブな生活」の実現

健康な段階からの入居を基本とし、目標志向型の「生涯活躍プラン」に基づき、健康づくりや就業、社会的活動、生涯学習に主体的に参加することを目指す

③ 地域住民（多世代）との協働促進

入居者が地域社会に積極的に受け入れられ、子どもや若者など多世代との協働や地域貢献できる環境を実現する。ソフト面全般にわたる「運営推進機能」の整備や、地域包括ケアシステム関連施策との連携も重要

④ 「継続的なケア」の確保

医療・介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保。重度の要介護状態になっても地域に居住しつつ介護サービスを受けることを基本とする

⑤ IT活用などによる効率的なサービス提供

医療・介護人材の不足に対応し、ITや多様な人材の活用、中高年齢者などの積極的な参加により効率的なサービス提供を行う

⑥ 入居者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営

入居者自身がコミュニティの運営に参画するという視点を重視

⑦ 構想の実現に向けた多様な支援

情報支援、人的支援、政策支援により構想の具体化を後押し

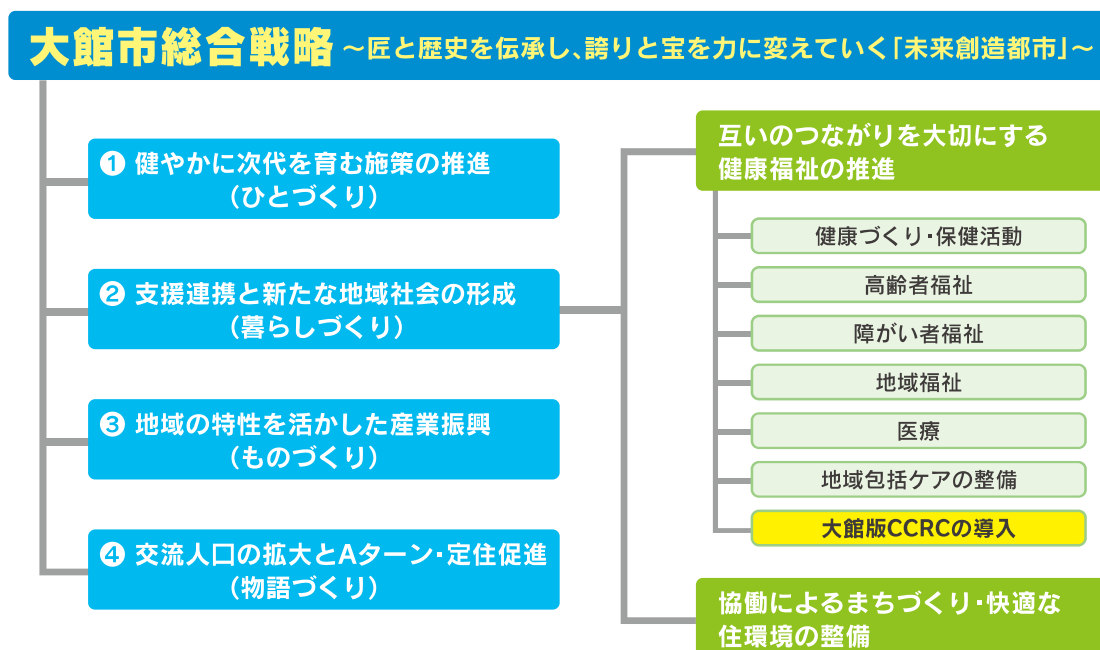
出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

2 大館市における CCRC 導入の目的

全国的に人口減少、高齢化が進展する中、本市も同様に、生産年齢人口の流出、労働力不足等による地域活力の低下が喫緊の課題となっています。

本市では、人口減少問題を克服し地方創生を実現するための戦略的施策を「大館市総合戦略」に取りまとめており、大館版 CCRC の導入は、「暮らしづくり」の推進施策の一つとして位置づけています。

大館市総合戦略の体系と「大館版CCRC」の位置付け



「支援連携と新たな地域社会の形成」において、大館市総合戦略では現状と課題、取り組みの基本方向を次のとおり示しています。

現状と課題

- 核家族や高齢者のみの世帯、高齢者のひとり暮らし世帯が増加し、健康不安を抱える人や日常生活に支障を来す人が増えている。
- 人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域を維持し安心して暮らせるための地域コミュニティなどの強化が必要である。
- 国内では大規模な自然災害が多発している中で、本市においても豪雨や豪雪による被害が発生しており、安全に暮らせるインフラや住環境の整備が必要である。

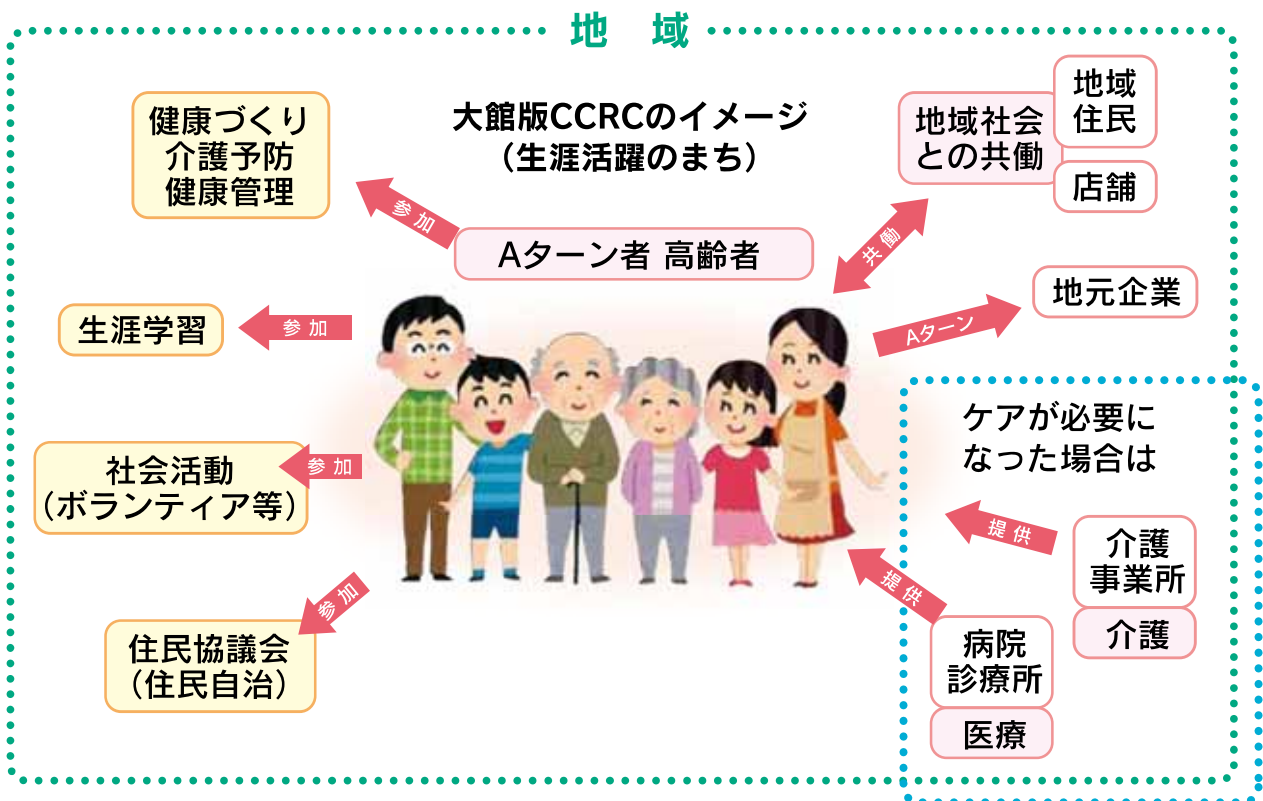
基本方向

- 保健・医療・福祉が連携して市民の健康寿命の延伸を図ることで健やかな心と体を育むとともに、地域で暮らすうえで支援の必要な高齢者や障害のある人が安心して暮らすことのできる支援体制や環境整備を進める。
- 防災、防犯、克雪対策など、安全・安心な市民生活を支えるさまざまな取り組みを推進する。
- 世代を問わず多くの市民が快適に暮らせるよう、住環境をはじめ、生活環境、交通機関等の整備を図る。

5年後の目指す姿

- ◆ 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられる社会
- ◆ 健康でアクティブな生活を送り、必要な時に医療・介護ケアを受けられる多世代が共存する地域社会

本市は、地域活性化、定住人口増加への手段の一つとして、高齢者に限らない多世代の移住促進を主な目的に、安心して健康的な活動・生活ができるような「大館版CCRC」の実現に取り組むものです。



第2章 大館版CCRCのコンセプトと目指す将来像

1 大館版 CCRC のコンセプト

大館版 CCRC とは、本市の地域活性化、定住人口増加、多世代の移住促進を目的に、安心して健康的な活動・生活ができる環境づくりを進めるものです。これは、子ども、若者、高齢者それぞれの年代を通じて暮らしやすい「まちづくり」にほかなりません。

本市は、恵まれた自然と豊富な農産資源等により、四季を通じた生活の豊かさが感じられるまちです。市内には 27 ケ所もの温泉が身近にあるほか、鮎・イワナなどの溪流釣りや山菜採り、県立自然公園でのトレッキングなど季節ごとに色濃く変わる自然を誰もが楽しむことができます。きりたんぼ、比内地鶏等の国内における知名度の高い食文化・食材も大きな魅力です。

また、曲げわっぱ等の伝統工芸をはじめ、それぞれの地域に匠の技と個性豊かな伝統、文化を有していることも本市の特徴です。

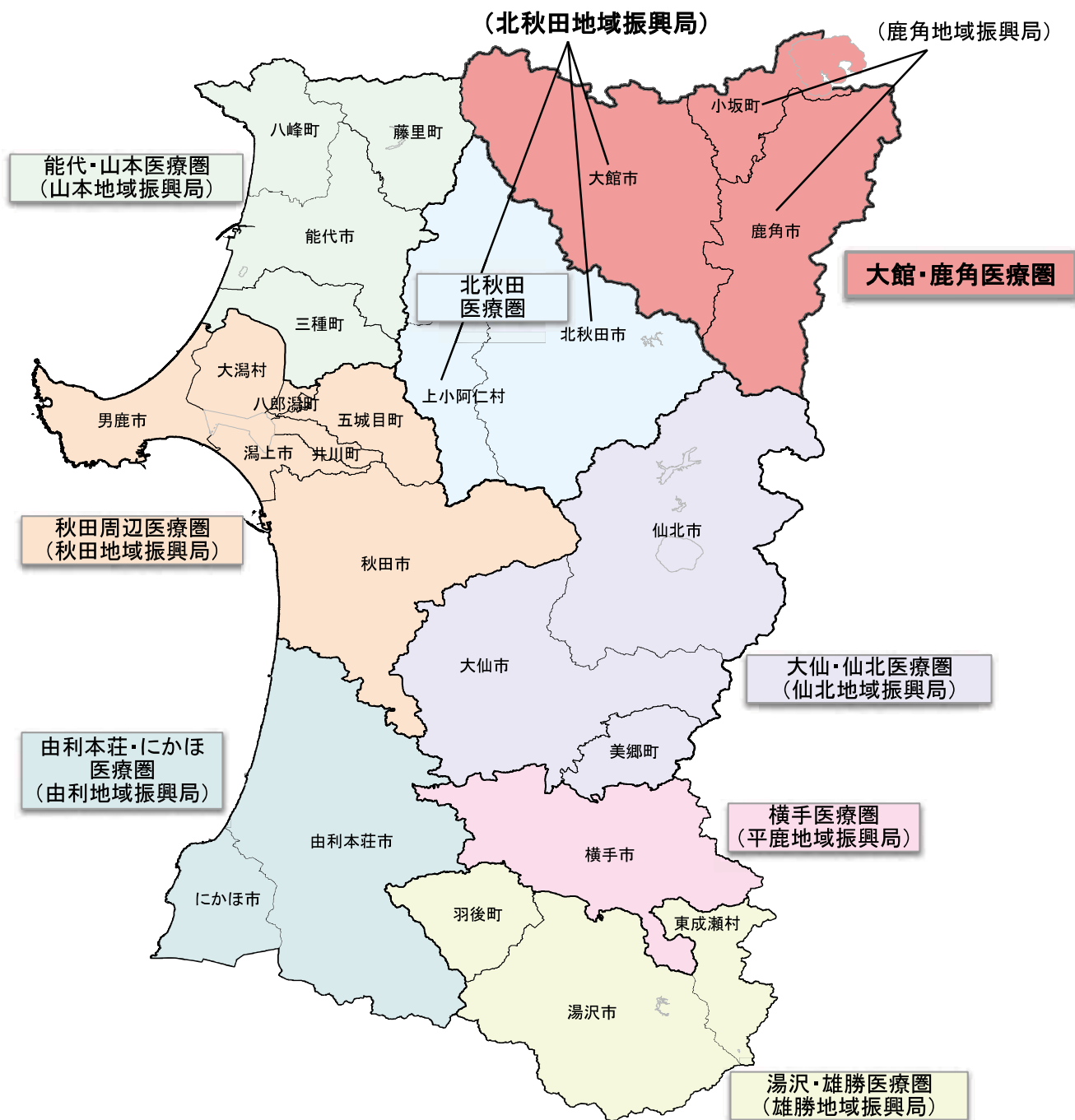


日本版 CCRC が目指す「安心して健康的な生活・活動ができる環境づくり」という観点から見ると、本市は、秋田県北部の拠点都市として、市民の日常生活や経済活動に係る都市機能・サービス等が集積していると言えます。

医療面では、大館・鹿角二次医療圏を中心に広範囲をカバーしている市立総合病院を有しており、救急医療や周産期医療、がん医療の機能充実が図られています。同時に、地域包括ケア病棟の活用促進によって、リハビリや療養が必要な高齢者等の回復期患者に対する在宅復帰にも取り組んでいます。また、認知性疾患医療センターの設置など総合病院を中心とした医療と、介護事業所が提供する介護サービス等との地域連携により、市民が切れ目のない医療サービスを受けられるよう体制の整備・強化に努めています。

また、市内には秋田看護福祉大学にて看護・福祉に関わる人材の育成が図られているほか、ニプロなどの医療系企業も立地しているなど、医療・福祉の集積は本市の強みの一つと言えます。

【秋田県の二次医療圏および地域振興局の所管市町村区分】



交通面では、大館能代空港が近接していることから東京等の大都市圏との時間距離は比較的短く、県内各地へのアクセス面についても、日本海沿岸東北自動車道の整備が進んでいることで、利便性は高まっています。



交通ルートの整備もあり、観光・交流面では、北東北の拠点としても大きな役割を担っています。平成28年には、北秋田市・小坂町・上小阿仁村と地域連携 DMO²「一般社団法人秋田犬ツーリズム」を設立し、インバウンド誘客に力を入れて取り組んでいます。観光推進は、あらゆる産業が一体となって進めていくものであることから、求められる市民の活躍の場においても広がりを見せています。

このように本市は、地域資源の魅力と都市機能の強みの両方を備えており、これらを活かしながら相乗的に「まちづくり」を進めています。



本計画が目指す「生涯活躍のまちの実現」とは、「あらゆる世代の市民自身が本市での暮らし（“おおだて暮らし”）を魅力的と受け止め、誇りに思いながら、日々を健康でアクティブに生活している姿の実現」であると考えます。

また、中高年齢者を含めた効果的な UJI ターンを促進するためにも、地域住民、地域づくりを担う団体、事業者、行政等が協働し、様々な地域課題の解決に寄与する仕組みの構築を全市的に進めていきます。

² 地域連携 DMO：Destination Marketing / Management Organization の略称。地域全体の観光マネジメントを一本化する、着地型観光（観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態）のプラットフォーム組織。

本計画は、あらゆる世代の市民が安心して健康的な生活・活動ができる環境の実現を目指すものとして、その一つひとつの取り組みにおいては“おおだて暮らしの魅力”が根幹にあるものと考えます。

このことから、本計画のコンセプトを次のようにします。

“おおだて暮らしの魅力”によってあらゆる世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指す



また、本計画では、コンセプトに基づいて以下の3点を重要な要素とします。

要素① 大館圏域都市圏を中心拠点とした充実した都市機能

県北の拠点都市としての充実した都市機能を十分に活用し、医療をはじめとする生活機能や、暮らしの基盤となる雇用・就業等を支えます。そのために、市民や地元事業者の活躍を促すことで、更なる都市機能の充実を図ります。

要素② 多世代交流と支え合い

高齢者ととどまらない多世代の交流、共生、支え合いの仕組みづくりに取り組みます。実現に向けては、地域コミュニティでの自助・共助を重視します。

要素③ 移住者が憧れる“おおだて暮らし”

移住者の獲得に先立ち、まずは市民自身の日常生活の充実度を高めることで、移住者が憧れるような“おおだて暮らし”の実現を目指します。

移住希望者に対しては、本市での暮らしを理解、体感してもらえるよう、お試し居住や長期滞在プラン、二地域居住等のソフトプログラムメニューの充実を図ります。移住者に特別な待遇や特典を与える視点ではなく、本市の中で共に“おおだて暮らし”をつくり、次世代にそれを伝えていく仲間として受け入れていきます。



2 大館版 CCRC の目指す将来像

(1) 「生涯活躍のまち構想」の要件への適用について

本計画は、中高年齢者が安心して健康に活躍できる環境をつくり、多世代の移住者を受け入れながら、全市民を対象とした生涯活躍のまちを目指すものです。その上で「大館版 CCRC」として、国の「生涯活躍のまち」構想の趣旨から一定の水準を確保することが重要となります。

国では、「入居者」「立地・居住環境」「サービスの提供」「事業運営」の4つの観点から、入居者の安心・安全を確保するため地域によらず遵守しなければならない共通項目と、地域特性やコンセプトに沿った多様性を尊重するために盛り込む選択項目を示しています。

なお、本計画では、国が示している「入居者」をおおだて暮らしに賛同する「移住者」もしくは「住み替え者」として想定しています。

「生涯活躍のまち」構想の具体像

	◎入居者の安心・安全を確保する＝「共通必須項目」	◎地域の特性や強みを活かす＝「選択項目」
入居者	I. 入居者 ①入居希望の意思確認 → 構想の基本理念を理解し、入居意思が明確な者とする必要がある。意思確認のための丁寧なプロセス(事前相談・意見聴取、お試し居住など)を用意 ②入居者の健康状態 → 健康な段階からの入居が基本。要介護者も排除しない ③入居者の年齢 → 早めの住み替えや、入居する地域での活躍を念頭に、50代以上を中心とした幅広い年齢構成とすることが望ましい	I. 入居者 ①入居者の住み替え形態 → 「広域移住型」⇔「近隣転居型」 ②入居者の所得等 → 一般的な退職者を基本としつつ、富裕層も想定 ③入居者の属性 → Uターン・趣味嗜好等の「個人のニーズ」や、地域の求める専門知識・技術等の「地域のニーズ」に着目し、地域の実情に応じて募集。その際、入居者の属性に応じた支援が重要
立地・居住環境	II. 立地・居住環境 ①地域社会(多世代) → 中高年齢者が地域社会に溶け込み、多世代と交流・協働できる環境を整備 ②自立した生活 → 共同生活と個人生活のバランスに配慮し、安心して自衛できる居住空間 ③生活全般のコーディネート(運営推進機能) → 「地域交流拠点」を整備し、入居者の生活全般を支えるコーディネーターを配置	II. 立地・居住環境 ①どこに立地するか → 「まちなか型」⇔「田園地域型」 ②地域的広がりをどうするか → 「タウン型」⇔「エリア型」 ③地域資源をどう活用するか → 既存施設や空き家の活用、団地再生など多様なケースが想定される ④「地域包括連携」 → 既存の福祉拠点の活用や介護保険制度の「生活支援コーケア」との連携
サービス提供	III. サービスの提供 ①移住希望者への支援 → マッチングやお試し居住などの支援 ②「健康でアクティブな生活」を支援するプログラムの提供 → 個人のスキル活用やポテンシャル開拓の視点を踏まえた「目標指向型」の「生涯活躍プラン」の策定・実施 ③「継続的なケア」の提供 → 人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる体制を地域の医療機関等と連携して確保	III. サービスの提供 ①住み替えサービス → 中高年齢者の現在の持ち家等を若年層などに売ったり貸したりできるような支援 ②就業・社会参加支援 → 地域の特性や個人のニーズに応じ、就業・社会参加・生涯学習など多様なプログラム
事業運営	IV. 事業運営 ①入居者の事業への参画 ②事業運営やケア関係情報の公開	IV. 事業運営 ①多様な事業主体の参画 ②事業形態に応じた収益モデルの確立・初期費用と維持費用の抑制に努める ③コミュニティの人口構成維持

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

① 移住者（入居者）

共通項目への対応

- 健康な段階からの移住を基本とする。
- 移住者は地域での活躍を念頭に、幅広い年齢層を受け入れする。
- 事前の移住相談や移住体験メニュー等を活用し、移住者の希望やニーズを丁寧に確認する。

地域特性・ニーズに応じた選択項目への設定

- 東京圏等からの移住、近隣地域からの住み替えの双方を想定する。
- “おおだて暮らし”の魅力を享受し、地域に溶け込むことで、自らのライフスタイルの実現を図る。

② 立地・居住環境

共通項目への対応

- 中高年齢者が地域社会に溶け込み、地域住民とともに多世代と交流・協働できる環境・拠点を整備する。
- 地域と連携した見守り等によって、中高年齢者が健康な段階から人生の最終段階まで安心して自立した生活が送れる居住空間を提供する。
- 中高年齢者の日常生活、医療介護等のケア・地域交流等を含め、生活全般の管理・調整、プログラム開発等を担う「運営推進機能」を整備し、それらを支える専門人材（コーディネーター）を配置する。

地域特性・ニーズに応じた選択項目への設定

- まちなか・田園地域の双方を対象とし、市内全域で展開する。
- 市全体を対象とする「タウン型」としての展開を念頭に、重点地区として「エリア型」の取り組みを推進する。
- おおだて暮らしの魅力向上に向けた、様々な地域資源を活用する。
- 空き家の有効活用等による、低コスト住宅の供給を支援する。
- 市立総合病院と地域包括ケアシステムとの相互連携を図る。

③ サービスの提供

共通項目への対応

- 移住希望者への情報提供、事前相談、マッチング等の支援メニューを整備する。
- 元気な中高年齢者が地域で活躍することを念頭においたプログラムを提供する。
- 移住者の持つスキルやポテンシャルを活かせるような、地域資源とのマッチングを支援する。
- 行政、医療機関、介護事業者が連携した「継続的なケア」の体制を構築する。

地域特性・ニーズに応じた選択項目への設定

- 空き家バンク制度³等の活用により、住み替えを含む住居の確保を支援する。
- 中高年齢者等の活躍の場の提供を推進する。

④ 事業運営

共通項目への対応

- 入居者自身が地域のコミュニティ形成・運営に参画するという視点に配慮した事業運営を行う。

地域特性・ニーズに応じた選択項目への設定

- 産官学民の多様な事業主体による「生涯活躍のまち」を形成する。
- 民間の担い手の発掘・育成に取り組む。
- 地域に存在する互助・共助の仕組みや公的な事業等と連携した民間によるビジネス展開を推進する。
- 多世代が交流するコミュニティが中長期的に維持されるよう、人口構成が適切に維持される仕組みを構築する。(特に現在高齢化が進展している地域)



³ 空き家バンク制度：賃貸や売買のできる空き家情報について、ホームページ、広報誌等により提供し、地域への定住促進を図る取り組み

(2) 大館版 CCRC の展開タイプ

あらゆる世代の市民が“おおだて暮らし”の魅力を享受できるよう、地域の特性を活かした「農山村タイプ」と「まちなかタイプ」の2つのタイプにより展開していきます。

〈本市で展開する2つのタイプ〉

農山村タイプ

地域で暮らし続けたいという住民の意向を念頭に、地域内の「自助・共助・公助」のサービス実現により、地域住民の在宅での健康長寿・生涯活躍を目指します。

まちなかタイプ

都市的利便を核とするほか、学びや就労機会の提供により、アクティブシニアとしての充実した生活の実現を目指します。

中山間地からの住み替え希望者も受け入れしていきます。

① 受け入れする移住者のタイプ

農山村タイプ

地域の暮らしやコミュニティを理解し、その地域の暮らしぶりに賛同する人を受け入れていくことが望まれます。そのため、移住促進においては、地域ならではの生活文化、コミュニティ等の魅力づくりが重要となります。

高齢者率の高い地域が想定されることから、若い年代も含めた多世代の移住者を受け入れることが望まれます。若い年代であるほど仕事・就労機会が必要であり、移住後の仕事としては農業等のほか、観光関連や地域独自の新たなチャレンジも考えられます。

まちなかタイプ

都市的な生活利便が得られる環境の下で、“おおだて暮らし”を享受したいという移住者が想定されます。そのため、移住促進においては、生活利便、就労先、余暇等の多様性を提供・維持することが重要となります。

社会活動への参画意向の高い高齢者（アクティブシニア）には、多世代での支え合いの観点から、まちなかに暮らす子育て世代や要支援者のサポート役を担ってもらうことも考えられます。

農山村の集落に比べ、人口は多くても、地域内の人付き合いは希薄な面もあるため、民間団体、サークル等の各種コミュニティによるサポートも重要です。



② 居住環境・住まい

農山村タイプ

農山村部では、人口減少による地区内での空き家増加が課題の一つとなっていますが、これら空き家の活用が見込まれます。住み替えによって地域住民が互いに近接して住まうことや、独居者等の共同生活（シェアハウス）が考えられます。空き家の活用により住宅コストを抑えるだけでなく、地域内の互助や地産地消で賄っていくことで、日々の生活コストを抑えられることができます。

地域内に継続して住み続けていくためには、準備に猶予のあるうちに10～15年後の暮らしを住民相互で話し合うことから始めることが有効です。

まちなかタイプ

まちなかならではの高付加価値な住宅だけではなく、自立できなくなった高齢者や若年層・子育て世代も住める低廉な住宅の提供が求められます。

また、市内外から人が集まるまちなかであることを活かした、子どもから高齢者まで多世代が交流、共生できる環境づくりが重要となります。中心市街地の機能更新に合わせながら、多世代共生の機能の導入が望まれます。



大館版CCRC推進のポイント

～多彩な地域と人が輝く“おおだて暮らし”の充実による定住促進～

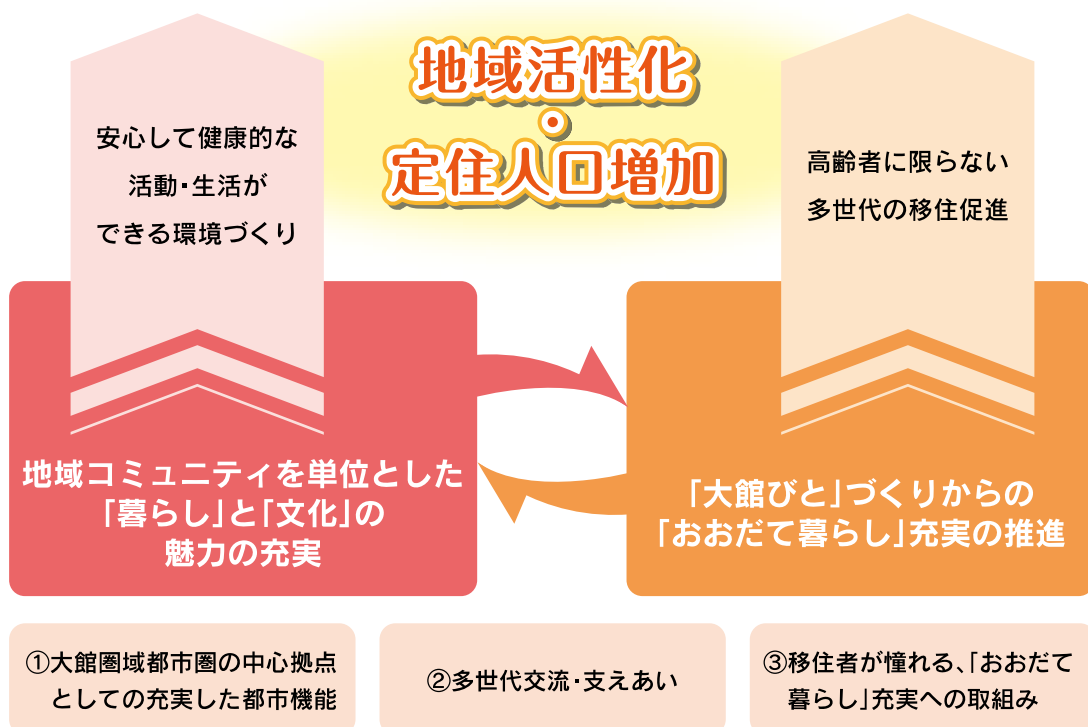
大館版 CCRC は、“おおだて暮らし”の魅力によって、幅広い世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指すものです。

これからの人口減少、超高齢社会の中でも、あらゆる世代の市民が定住できる、定住したいと思える“おおだて暮らし”の魅力充実へ取り組みます。推進のポイントとして、子育て世代を含む移住者獲得も意識しつつ、

- 地域コミュニティ単位とした「暮らし」と「文化」の魅力の充実
- 「大館びと」づくりからの“おおだて暮らし”充実の推進

を重視して推進していきます。

おおだて暮らしの魅力によって若年層を含む 幅広い世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指す



第3章 「おおだて暮らし」の 魅力充実への取り組み方策

大館版 CCRC は、「おおだて暮らし」の魅力充実を図ることで、若年層を含むあらゆる世代の健康長寿、生涯活躍を実現し、本市への定住促進と移住者獲得を目指すものです。

超高齢社会・人口減少の進展の下、市民が定住できる、定住したいと思える「おおだて暮らし」の魅力充実を図ることを取り組みの主眼としていきます。

1 基本的考え方

(1) 地域コミュニティを単位とした「暮らし」と「文化」の魅力充実

市民が定住するための基盤となる「おおだて暮らし」の魅力については、本市を構成している各地域コミュニティを単位として考えていきます。

各地域コミュニティには、それぞれ地域独自の生活文化が伝承されており、市で行っている「地域応援プラン⁴」や「百花繚乱作戦⁵」等の事業で、各地域の文化を次代に伝え、発展させる取り組みを支援しています。子どもたちから中高齢者までのあらゆる世代が大館に誇り、愛着を持ち、本市に暮らし続けることができる地域づくりを進め、市民が暮らし続けたい大館を残すことを目指していきます。

本計画の実現にあたっては、生活文化の地域コミュニティの単位を小学校区と想定し、生活環境の充実を図っていきます。



⁴ 地域応援プラン：集落自治会などを対象に、地域の活性化や課題解決に向けた地域づくりの取り組みに対する本市の補助事業。

⁵ 百花繚乱作戦：本市の各小・中学校が大館ふるさと教育の趣旨のもと、それぞれの地域の特色を生かしながら独自のふるさとキャリア教育を展開している取り組み。

(参考) 地域応援プラン取り組み一覧

大館地域

地区	団体名等	テーマ
釈迦内	小釈迦内睦老会	農作業体験を通じた世代間交流
釈迦内	釈迦内まちづくり協議会	ひまわりプロジェクト「ひまわり」を核とした異世代交流による地域活性化
釈迦内	釈迦内上・中通り町内会	心を癒す親水公園
釈迦内	獅子ヶ森一区町内会	生き生きと暮らせる住み良い地域づくりを目指した「獅子ヶ森・生きがい創造プラン」
釈迦内	温故知新会	地域の歴史資源の保存活動を通じた地域活性化
釈迦内	釈迦内婦人会	アルモンデプロジェクト ～有るもの合わせて、無いものつくる～
花岡	土目内町内会	ふるさとの村と森と人づくり
花岡	繫沢町内会	地域住民が安心して集える活動拠点の確保と舞茸・トビ茸生産により地域活性化
花岡	大森団地町内会	高齢者が生きがいをもって自立できる生活基盤の確立
花岡	花岡温泉管理運営委員会	温泉の排水熱を利用した「燃料節減」と「温室農園」による地域コミュニティの向上
矢立	矢立郷土史会	地域住民が積極的に自立と活動
釈迦内	長面袋町内会	伝承文化の継承と青少年の育成
矢立	松原町内会	地域の環境美化を通じた地域づくりと世代間交流
矢立	粕田町内会	地域のイベントの強化と空き家対策
矢立	矢立自然友の会	矢立峠、羽州街道、風景林（秋田杉）を活かした地域活性化
大館	有浦町内会	「顔の見える」町内会の地域コミュニティと福祉向上
大館	御成町一丁目町内会	「ハチ公の駅」、駅周辺関連事業に伴う駅周辺活性化と25年水害に備えたまちづくり
下川沿	立花農業盛上げ隊	農業で立花地域発展
川口	川口町内会	川口町内と隣接町内の子供達と住民の憩いの場、交流の場として公園整備
下川沿	隼人町内会	地域の特性を活かした生きがいのある地域づくり
大館	大館市中央商店街及び近郊町内による女子会	商店街と町内会の協同による地域コミュニティの活性化・地域外との交流による優しく元気な街づくり
大館	昭和町町内会	子ども達が将来に渡って大切にしたいと思える地域づくり
釈迦内	沼館町内会	防災意識の向上と地域の繋がりの強化
大館	一心町内会	地区住民の活動拠点整備による地域活動の活性化と地域力の向上
大館	ゼロタテアートセンター（AZT）	大町を中心とした地域活性化
大館	中神明町内会	町内の活性化向上
大館	小館花中	住民相互の交流と環境の整備による地域社会づくり
大館	南が丘町内会協議会	地域の連帯感と絆を深め、生活環境の改善を図る
上川沿	山館部落	山館会館を拠点とした地域活性化
上川沿	上川沿の将来を考える会	
大館	山玉台町内会	地域の繋がりの向上
二井田	館町内会	子どもたちが地域の歴史に学び、将来に夢を抱くとともに、高齢者が生きがいを持てる地域づくり
真中	出川部落	地域資源「出川のけやき」の保存活動を通じた地域づくり
二井田	麓西地区振興会	ハチ公の故郷を活かした地域活性化
十二所	上新町町内会	住民自らが行動する共生、協働のまちづくり
十二所	大滝温泉観光協会	大滝温泉の活性化
十二所	猿間自治会	桜公園の景観を活かした交流の場づくり
十二所	成章わらべ育成会	「みどりいっぱい、元気いっぱい 成章かがやき運動」
十二所	葛原自治会	老犬神社を活かした地域活性化

比内地域

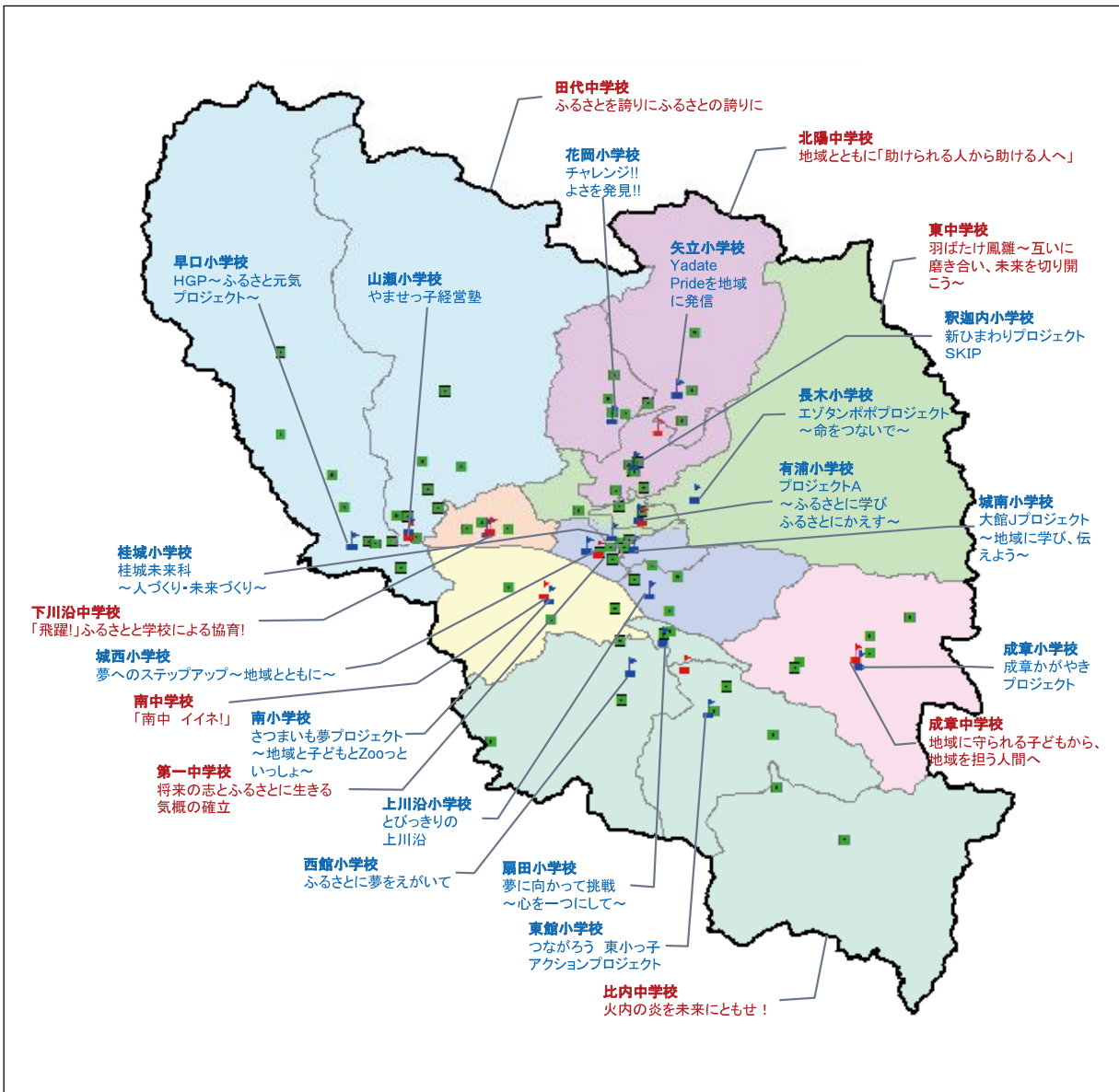
地区	団体名等	テーマ
扇田	裏通り町町内会	高齢者に優しく、通行人がゆったり出来るまちづくり 「絆をより強くする町内会づくり」
扇田	扇田まちづくり協議会	米代川河川公園を拠点とした地域活性化
小泉	小泉まちづくり協議会	ブルーベリー作付などによる遊休農地解消による未来を拓く活動推進
西館	西館まちづくり協議会	明るく笑顔の絶えない住みよい地域づくり
西館	片貝ニツ森自治会	協働作業による活気あふれる地域づくり、世代交代に向けて
味噌内	みそない地区まちづくり協議会	協働による地域づくり
東館	東館まちづくり協議会	「お茶の水 井戸」復元
東館	日詰町内会	協働作業による団結力の強化
大葛	大葛の将来を考える会	幸福度日本一の集落を目指して
大葛	大葛地区青若会	蕎麦粉を使った加工品による地域の特産品づくり、耕作放棄地の解消、共同作業や蕎麦のイベントによる地域のコミュニティの強化

田代地域

地区	団体名等	テーマ
本郷	アイリス会	花と野菜作りの交流活動
大野	大野地域まちづくり協議会	クレソンの地域特産化
早口	元気なたしる盛り上げ隊	田代地域の盛り上がり
早口1	出口4常会	早口駅前花壇整備
早口1	外川原常会	地域自然と地域文化を活用した活力ある地域づくり
早口1	双子会	二子山周辺を活用した地域づくり
岩野目	李岱常会	いきいきサロンの活動など世代間交流の発展
岩野目	中仕田町内会	高齢者が集うサロン、管からしめ縄をつくるなどの世代間の交流
谷地の平	中島団地町内会	絆～中島団地町内会地域力アップ
岩瀬	出戸岩瀬自治会	和をもって築こう、つなごう世代のかけ橋
谷地の平	たしるラズベリー研究会	キイチゴ主力産地化
谷地の平	谷地の平東町内会	地区住民の活動拠点の整備や奉仕活動を通じ世代間の生き生き交流を深める
赤川	代野番楽保存会	代野番楽を通じた世代間交流と後継者育成
山田	山田部落会	高齢者が生きがいをもって自立できる生活基盤の確立
早口11	早口一地域まちづくり協議会	憩いの場の危険箇所解消による地域活動の活性化
越山	越山地域まちづくり協議会	地域イベント活性化による地域コミュニティの向上
赤川	赤川常会	赤川担い手センターを拠点とした世代間交流による持続可能な地域社会づくり



(参考)地域応援プランの作成地区と各小中学校の百花繚乱作戦取り組みテーマ



百花繚乱作成実施学校

🚩 中学校

🚩 小学校

地域応援プラン実施地域

■ 地域応援プラン

(小・中学校区)

田代中学校区

北陽中学校区

東中学校区

下北沿中学校区

第一中学校区

南中学校区

成章中学校区

比内中学校区

小学校区

(2) 地域コミュニティの「10年後」を展望

「おおだて暮らし」の魅力の基盤は地域コミュニティです。しかしながら、山間部などは少子高齢化が進展し、小学校の廃校も進んでいる状況です。また、これまで地域づくりを牽引してきた中心世代が70歳代となってきているなど、10～15年後を展望すると、地域内での日常生活の維持や、伝統文化の継承等に支障をきたすことが想定されます。

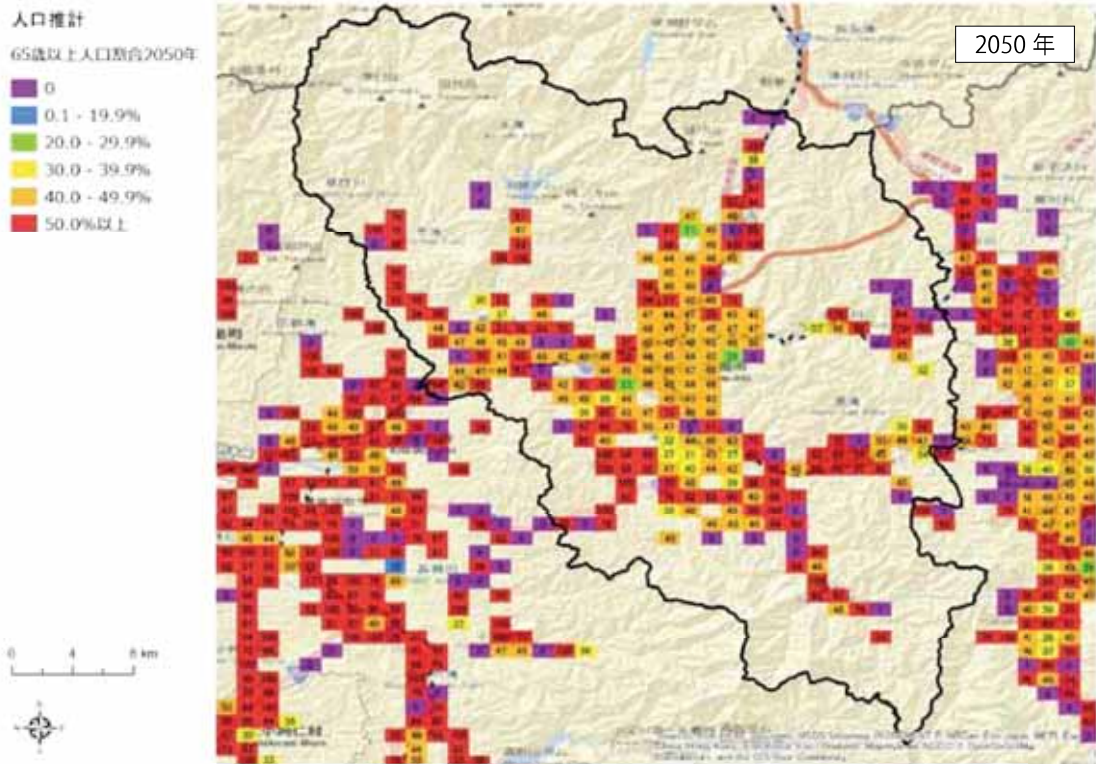
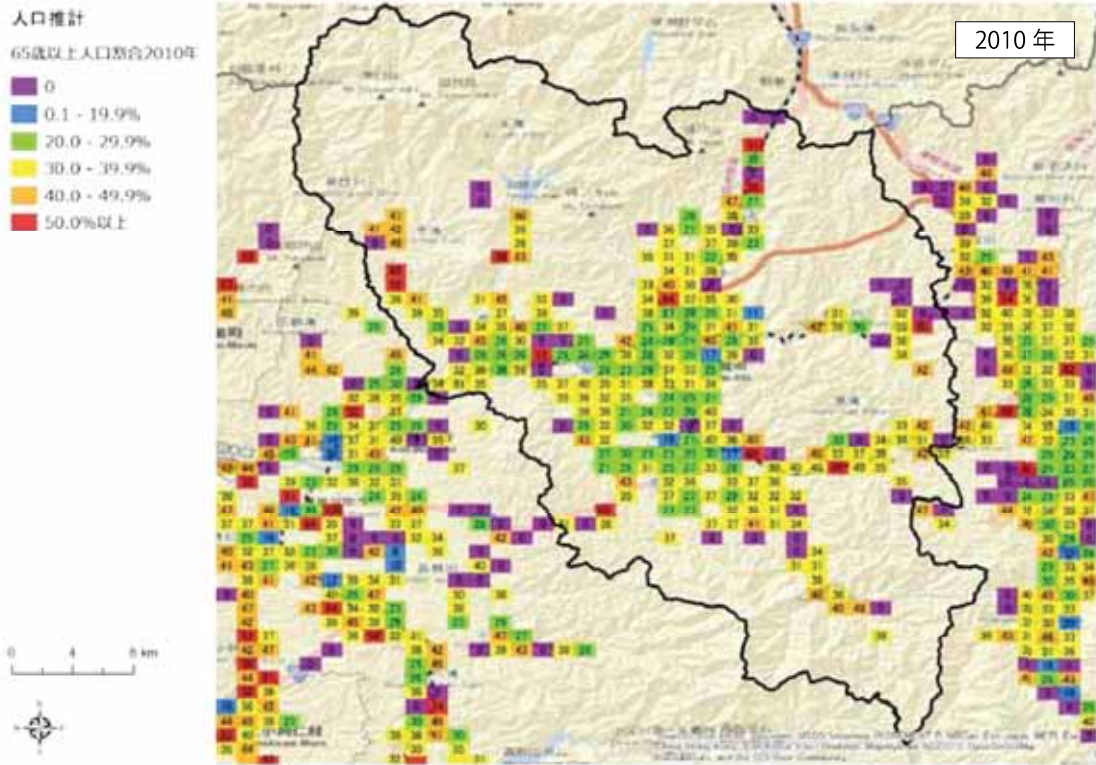
地域の暮らしを未来に残していくためには、若い世代を受け入れるとともに、次の担い手を確保していくことが何よりも必要なこととなります。本市の移住促進への取り組みは、地域の暮らしの素晴らしさを残しながら、持続的発展を目指すためのものです。

こうした地域コミュニティ単位での「暮らし」を残し発展させるためには、「10年後を考える」ことから始め、少しずつ着実に取り組みを進めることが重要です。

「10年後」とは、これからの人口減少、超高齢社会に向けた新たな「まち」の再構築が求められる時期であり、総合戦略、総合計画、地域包括ケアシステム、都市計画マスタープランなども絡み、これらの行政計画、まちづくりの方向性を踏まえながら、それぞれの地域コミュニティの10年後の検討を行います。



(参考)大館市域1 kmメッシュの65歳以上人口割合



(参考)山田集落会の地域づくり構想(平成22年3月)
『10年後の山田—高齢者が生きがいをもって自立できる生活基盤の確立』



(参考)山田集落会「地域応援プラン活動(平成25年度)」の様子

山田“菜”発見市



ホダ木の玉切り作業



(3) 「おおだて暮らし」の充実と「大館びと」づくりの推進

「おおだて暮らし」の充実とは市民生活の充実そのものです。市民生活を充実させていくためには、「大館」の良さを理解し、それを具体的な形にし、持続させていくことができる人材を育て、増やしていくことが必要です。

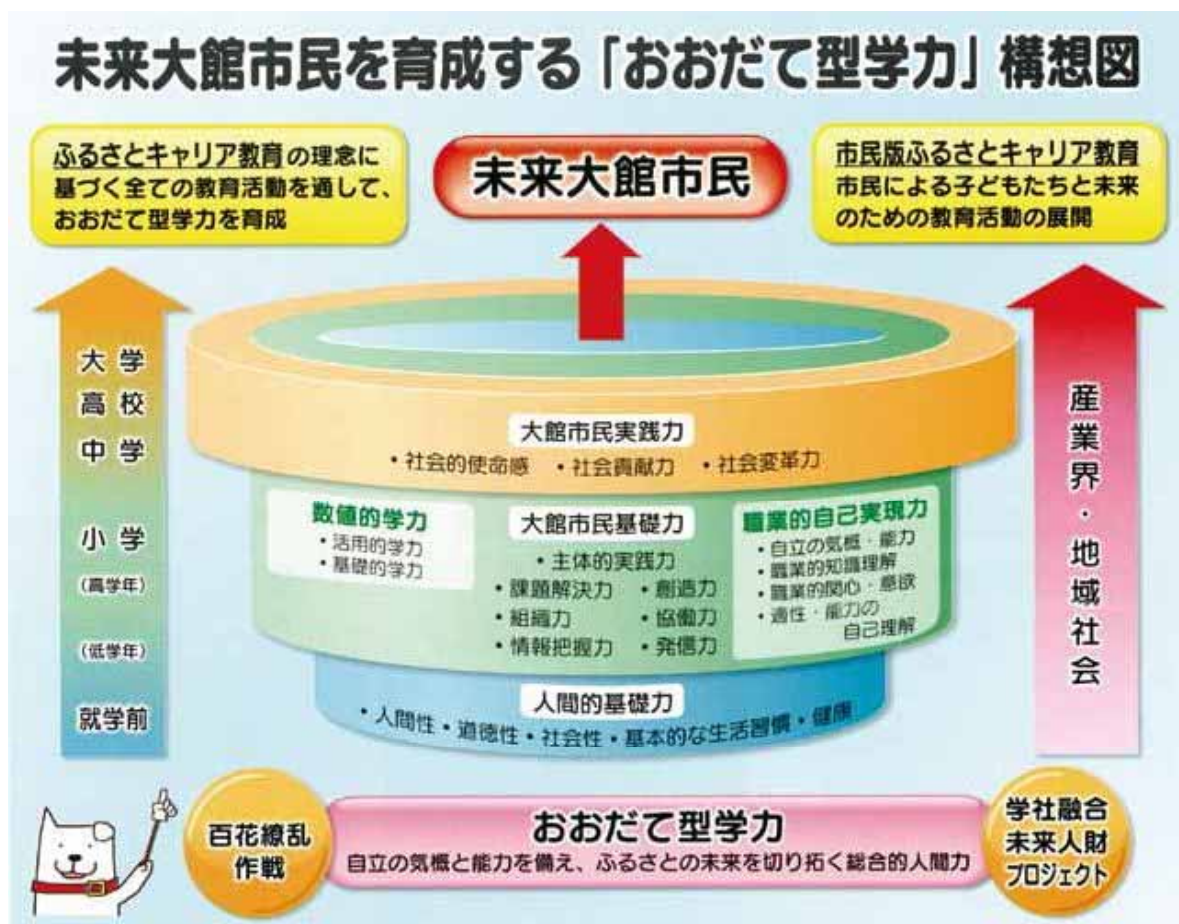
大館市教育委員会では、平成 23 年度から「ふるさとに根ざし、自立の気概を持った人材の育成」を目指し「ふるさとキャリア教育」を推進しています。ふるさとの価値を子どもたちに伝え、地域社会の存続をかけて基盤を固める働きかけが「ふるさと教育」であり、その基盤の上に子どもたちの進路を示す役割がキャリア教育です。前述の「百花繚乱作戦」では、全小・中学校で子どもたちが地域の人々と共に汗を流し、知恵を絞り達成感を味わうことで、自分の成長や地域に貢献する喜び、手応えを感じています。義務教育課程終了後も「高校生まちづくり会議 HACHI」などで地元を知り、また、まちづくりを実践する取り組みが進められています。

一方で、本市には地域ごとに多様な生活文化や習慣があります。例えば、地域活動の活発な山田集落会ではその担い手を「達人」として紹介しています。このような「おおだて暮らし」の技を有し、大館の暮らしぶりを体現する人材はまさに「大館びと」と言えます。

市民や子どもたち、あるいは移住者が「おおだて暮らし」の技を次々と習得していくことで「大館びと」になっていくことを応援し、こうした「大館びと」を増やすことを通じて「おおだて暮らし」の魅力の更なる充実を図ります。



(参考)大館市ふるさとキャリア教育



(参考)百花繚乱作戦での子どもたちと地域の人々との協働

⑥長木小学校



エソタンポポプロジェクト
～命をつないで～

- ★エソタンポポの植栽
- ★他校・他地域との交流・広報活動

⑨成章小学校



成章かがやきプロジェクト

- ★ふるさと学習、地域交流・貢献
- ★成章枝豆を使ったキャリア教育
- ★夢講座

2 「おおだて暮らし」の魅力充実への取り組みの進め方

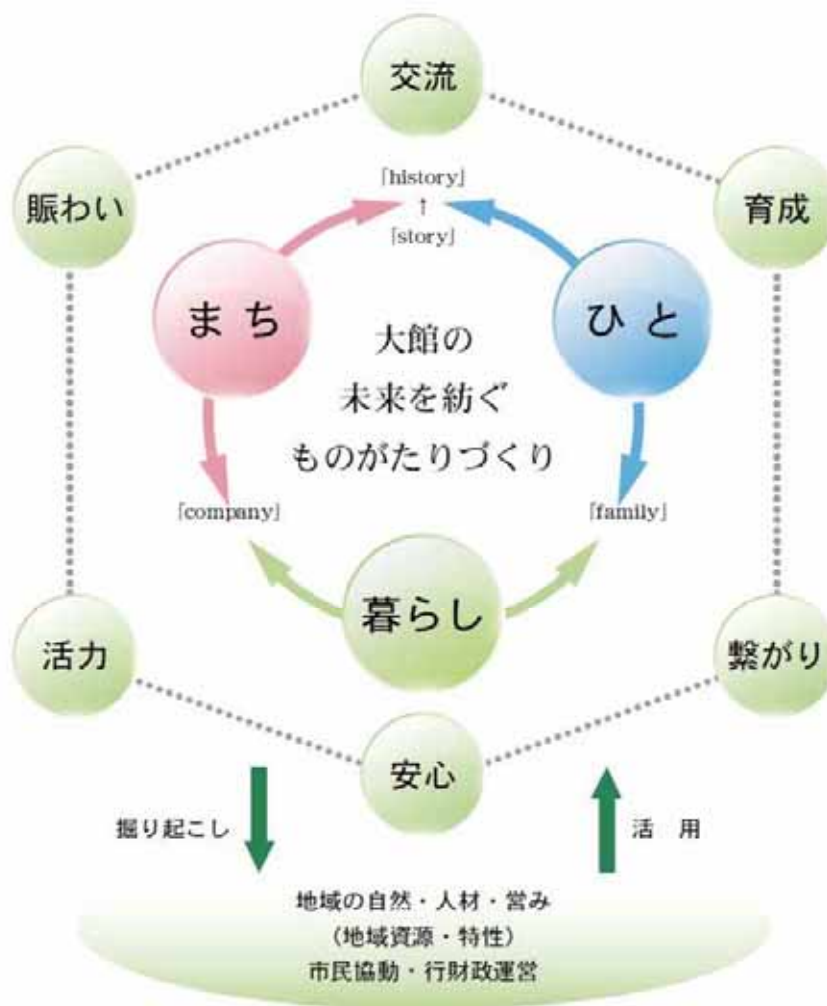
(1) 大館市のまちづくりの一環としての事業推進

本基本計画は「おおだて暮らし」の充実を主眼においた地域づくり、人づくりを進めていくものですが、これはまさに大館市のまちづくりそのものです。

本市では、まちづくりの方向性を示す最上位計画として第2次新大館市総合計画を策定し、平成35年までの8年間の基本構想を示しています。

基本的な事業推進は総合計画に基づいて行われるものとし、大館版 CCRC の実現に向けて、追加が必要となるものについて事業を上乗せし実施していきます。

【第2次新大館市総合計画の基本理念】



(2) 施策間連携による包括的なまちづくりの推進

a 既存施策における施策間連携

超高齢社会に対応するための多世代共生のまちづくりの方向性として、市の各課で行っている施策間の連携による「包括的なまちづくりの推進」を重視します。

前述した「地域応援プラン」「百花繚乱作戦」などは、特に本計画の理念に関連が深い取り組みです。例えば、地域住民で作り上げ、磨いてきた「地域応援プラン」の事業を、「百花繚乱作戦」におけるふるさと教育の一環としても展開する等、施策間の連携によって目指す理念を効果的に実現することができます。

多世代が共生する持続的なまちづくりに向けて、既存施策を連携し有効に活用し、「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画の施策として展開していきます。

「おおだて暮らし」の魅力充実への、多世代を対象とした取り組み施策例

若者世代	中高年齢者世代	世代共通
<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代包括支援センター事業 出産祝い地域内商品券贈呈事業 保育料無償化 病児・病後児保育 企業内保育施設整備事業 福祉医療費給付助成事業（中学生まで） 放課後児童クラブ ふるさとキャリア教育 奨学金等返還支援助成金事業 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムの構築 生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター・協議体の配置） 地域自立生活支援事業（配食サービス） 在宅医療・介護連携推進事業 高齢者クラブ（地域サロン） 生きがい健康づくり事業 認知性予防介護教室 生涯現役促進地域連携事業 シルバー人材センター事業 高齢者等定額フリーパス券支援事業 はりきゅうマッサージ施術費助成事業 市民菜園事業 	<ul style="list-style-type: none"> 休日夜間急患センター事業 健康ポイント事業 市民版「ふるさとキャリア教育・活動」事業 空き公共施設等利活用促進助成制度 「大館びとの会」（移住者・市民交流会） 定住奨励金給付事業 住宅リフォーム支援事業（子育て・三世同居など） 空き家バンク制度事業 ペットにやさしいまち（ペットと泊まれる宿泊施設整備など） 歴史まちづくり事業（歴史的風致維持向上計画）

b 仕事、住宅、交通施策との連携

「おおだて暮らし」を持続させていくためには、生活基盤となる「仕事」や「住宅」の確保は欠かせないものですが、その他にも地域コミュニティにおいて、それぞれが担って欲しい役割を重視していきます。具体的には、まちなかにおいてICTや6次産業等の担い手となる若い人材が、地域内においては伝統文化の継承や、地域コミュニティのお世話係を務めるといった具合です。

また、高齢者であっても就労を希望するかたが元気に働き続けることができるよう、市では、生涯現役地域促進連携事業に取り組んでいますが、今後も、生涯を通じて活躍できるような取り組みが必要となってきます。

地域コミュニティで住み続けていくためには、高齢者においては、空き家の活用も念頭におきながら、一人暮らしのかた同士がシェアハウスやグループハウスにおいて共同で生活していくことも検討が必要であり、若年者や子育て世代においては、空き家への受け入れ等々、住まいのあり方をそれぞれの地域ごとに検討しなければなりません。空き家を有効活用することは、増え続ける空き家対策ともなりえることから、空き家バンク制度の周知に努め、既存の住宅の有効活用を目指していきます。

一方で、路線バスの減便や廃止、高齢による免許返納等で、いわゆる交通弱者が増えていくことが予想されることから、地域と地域とをどのように繋いでいくのかを、仕事と住まいの仕組みも考慮しながら、まちづくりの観点から市民と一体となって検討していきます。



(3) 民間(市民・産業界)の主体的な取り組みの推進と支援

本計画の実現に向けては、行政が計画的に進めていくまちづくりがその前提となりますが、市民一人ひとりが自らの10年先を見据えて、今後どのように健康長寿を目指し、暮らし、働いていくのかを展望しながら、主体的に目標設定と取り組みを行っていくことがより重要であると考えています。地域の将来を作りあげ、おおだて暮らしの魅力を引き上げていく市民主体の活動を推進します。

住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けるためには、健康でなければなりません。すでに実施している健康ポイント事業を活用するなど市民が主体的に健康に取り組めるよう健康づくり事業の推進を図るとともに、介護保険における介護予防事業の充実を図ることで、介護が必要となる状態にならないよう、県と歩調を合わせ、健康長寿日本一を目指していきます。

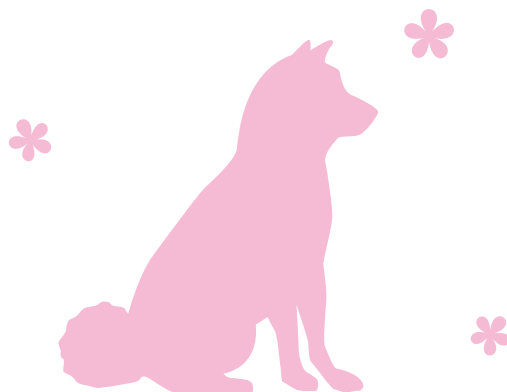
また、「多世代が暮らし続けられるまち」として持続していくためには、地域経済が活性化していくことが重要です。市内の企業や事業者、商工団体等と連携し、働きがいのある仕事の実現、働きやすく子どもを産み育てやすい職場環境の実現等々の取り組みを推進していきます。

(4) ソフトプログラム事業の先行

本計画では、市民が主体となる取り組みの推進を主眼に置いていることから、住宅施設や地域内の活動交流拠点等の新設をすぐに行っていくものではなく、既存のハードを有効活用していくことが重要であると考えています。

本市が目指すものは、サービス付高齢者住宅等の住宅施設ありきのまちづくりや移住施策ではなく、まずはそれぞれの地域での暮らしの魅力を引き上げていき、結果、市民がこのまちで暮らし続けたいと思えるまちにすることを最優先と考えています。そして、私たちと思いを共感できる移住者(=仲間)の受け入れを目指していきます。

今後は、まずは全市的に、健康長寿や多世代共生、生涯活躍の実現に向けた活動を促進させていくソフト事業を先行して展開していきますが、その中で、住宅施設や交流拠点等の設備面の課題が現れた場合には、地域住民と一体となって対応策を検討していきます。



(5)「農山村地域」を先行エリアとした「まちなか」との連携

a 農山村地域、まちなかの特長を活かした相互連携

本市において、地域活性化を目的とした活動・取り組みが活発な地域は、山田地区、釈迦内地区等、山間部や郊外・縁辺部で進展している傾向にあります。本計画では、このような農山村地域の10年後を展望して、必要な人材の移住受け入れを行う等、「先行エリア」として推進していきます。

一方で、まちなかでは地域コミュニティの繋がりが希薄化している面もありますが、都市的利便や就業環境、子育て（特に就学前）環境はまちなかの方が優れていることも事実です。

都市部での就業や生活が求められる子育て世代等の住民、移住者はまちなかで積極的に受け入れていきながら、農山村地域との交流を進めていくなど、より生活スタイルにあった地域に住み替えていく展開も想定しています。

(参考)大館市における就学前児童施設の分布



(中学校区)

田代中学校区	第一中学校区
北陽中学校区	南中学校区
東中学校区	成章中学校区
下北沼中学校区	比内中学校区

b 市民が共に大館市に暮らし続けるための仕組みづくり

前述のとおり、本計画では農山村地域とまちなかの地域内相互の「住み替え」も想定していますが、その活動を支えていく地域の垣根を超えた交流や情報提供等の場づくりや仕組みづくりを進めていきます。

現在ある移住者を中心とした「大館びとの会」に加えて、本市に暮らし続けていくための相談や、地域連携の取り組みを推進する仕組みとして「おおだて暮らす会（仮）」の設置を検討します。

「おおだて暮らす会（仮）」では、自分たちが暮らし続けていくための活動をする中で「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画をサポートしていくことに繋がっていきます。自分たちが暮らし続けていくための活動では、地域ならではの暮らしや生活文化の特徴を把握しそれを共有し、情報発信していくことを想定しています。そして、この会が活発に活動することによって、一人ひとりの「おおだて暮らし」の魅力の発掘や発見、磨き上げができるとともに、ライフステージに応じた生活の相互支援や情報提供、住み替え希望者への各地域コミュニティとの交流・絆づくり等に繋がっていくと考えられます。住み替え希望者が、地域コミュニティとの絆づくりを移住や住み替え後に始めるのではなく、「おおだて暮らす会（仮）」等からの情報で、事前に地域の暮らしぶりを把握し、顔なじみになった上で地域コミュニティの一員として移り住むことが理想的だと考えます。

市民が主体的に、「おおだて暮らし」の魅力を知り、その魅力を磨き上げ、これからも持続させていくことこそが、自分たちが暮らしやすくなることに繋がり、「おおだて暮らし」の向上にも繋がっていきます。

大館びとの会

大館びとの会は、大館市への移住者や移住希望者、地元の方々が集まって、日頃の不安や悩みを相談でき、交流の輪を広げていくための会。地元の商店街を散策する「まち歩き企画」や冬に向けての「冬の暮らし講座」など、毎月テーマを設定して定期的な開催。参加者の意見を取り入れながら、企画しているもの。



(6) 推進体制の構築

本市における施策間連携による包括的な取り組み、官民協働による事業推進を強化していくための仕組みを構築します。

a 施策間連携のための庁内推進組織

本市において、各課で実施している施策について、連携していくための推進組織の立ち上げを検討します。組織においては、各施策の連携方法を検討し庁内横断的な事業推進を実行していきます。

b 「おおだて暮らし」をサポートする民間参加の仕組み（おおだて暮らす会）

民間における「おおだて暮らし」の魅力充実、「仕事づくり」「住宅」等にかかる取り組みを実際に推進する実働組織の立ち上げを検討します。

前述の「おおだて暮らす会」は、市民主体の組織であり、本市に暮らし続けている「大館びと」として「おおだて暮らし」の魅力充実を進めるものです。取り組みを通じて本市への誇りを高めながら、その魅力の発信を移住者獲得にも役立てていきます。多彩な地域コミュニティの暮らし掘り起こし、地域での暮らしの充実に取り組むことを通じて、本市全体の暮らしを充実させるまちづくりの取り組みとします。

また、今後想定される市内外・地域内外からの住み替えに向けて、住宅の買い替え・借り換え・資産活用・リノベーション等に係る不動産、建築、金融関係の事業者、子育て・介護、生活支援等についての事業者や地域団体、地域での就労に係る事業者や関係団体も参画して、移住者や市民をサポートしあう仕組みづくりを検討します。加えて、市民が故郷への愛着をさらに持つことができるように、地元新聞等の報道や SNS⁶ 等も十分に活用するなど、対外的な移住広報との連携も検討します。



⁶SNS：Social Networking Service の略称。社会的ネットワークの構築できるサービスやウェブサイトの総称。（Facebook、Twitter 等）

3 重点プロジェクト

包括的なまちづくり及び先行エリアでの具体的な事業推進に向けて、3つの重点プロジェクトに取り組み、必要な推進体制の構築を目指します。

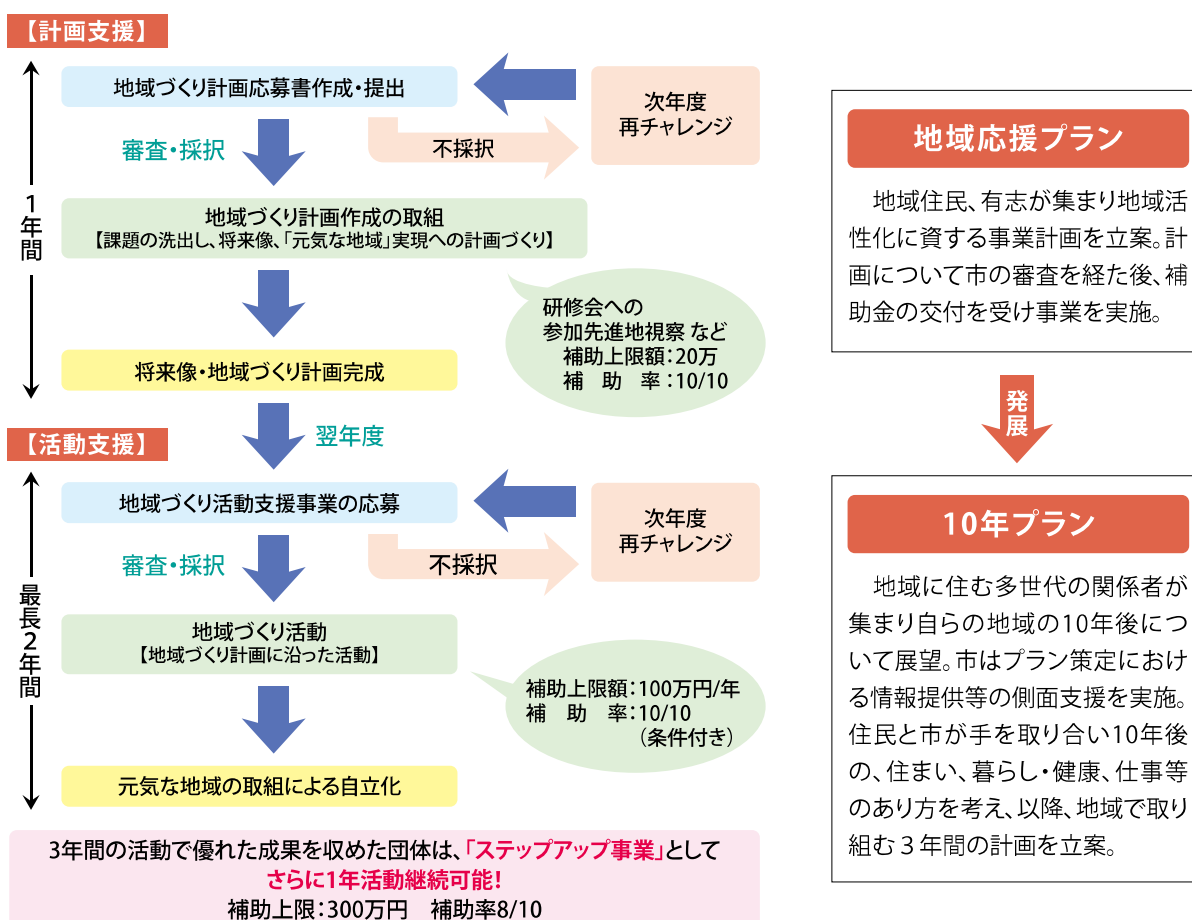
(1) 地域の「10年プラン」の策定支援

「10年プラン」は、自分達が暮らす地域の10年後を展望しながら、実現に向けた課題を地域内で共有し、課題を解決するために立てる計画です。プランは、当面3年内に実施する事業や、着手が必要な取り組み、事業の推進体制を検討していくものです。

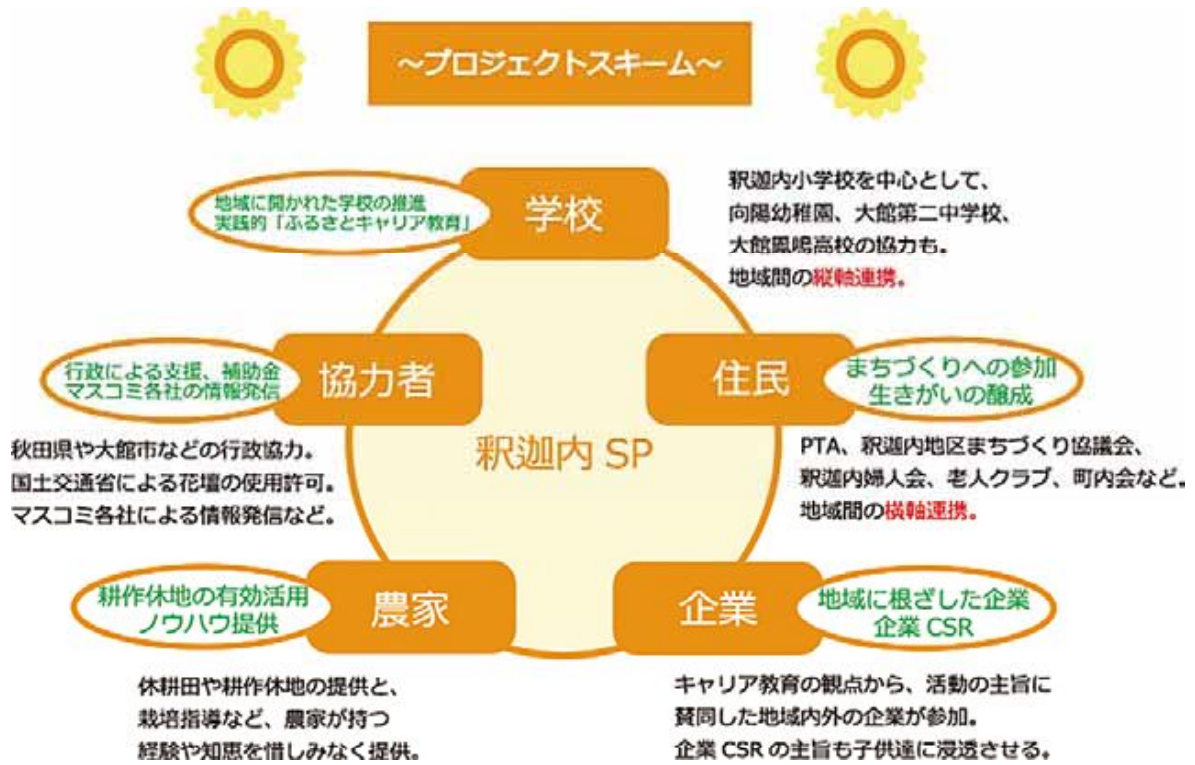
「10年プラン」の作成範囲は小学校区単位を目安とし、検討については地域住民、事業者、学校関係者、児童・学生等、多世代が関わることを望ましいと考えています。本市では地域に対して、10年後の人口推計、まちづくりの動向、関連行政施策等や、住まい、暮らし・健康、仕事等の今後のあり方等、プラン策定に必要な情報の提供等による側面支援をしていきます。

当面は、先行エリアとして想定される農山村部地域を中心に進め、各地域ならではの豊かな生活・文化に必要な担い手（＝仲間）の確保・育成も進めていきます。

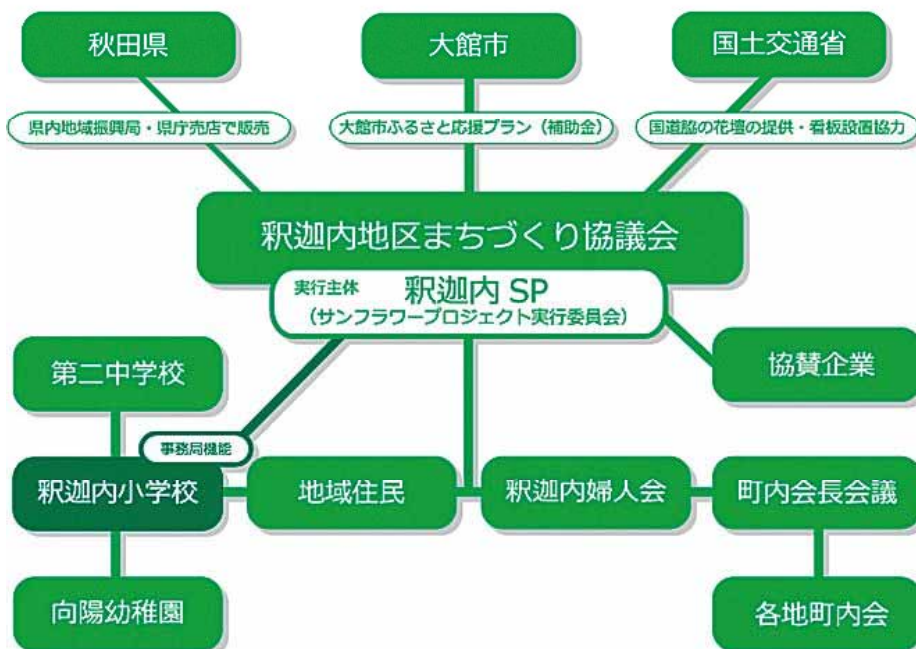
(参考) 地域応援プランのスキーム



(参考) 釈迦内地区サンフラワープロジェクトの仕組み、推進体制



釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会 組織図



(2) しごとづくりプロジェクト(まちなかでの若年者受け入れの仕組みづくり)

現在、本市では、有効求人倍率が過去最高を更新するなど、求人は豊富にありますが、職種に偏りがあることや求職者と求人側とのミスマッチが生じていることが課題となっています。若者や現役世代の定住促進及び移住にあたっては、仕事は生活の基盤であり、上記の課題を解決するためにも、既存の職種ではない「新しいしごと」づくりや求職者が多い職種の求人拡大への取り組みも重要です。

今後、「新しいしごと」は、大館駅前周辺でのにぎわいづくりや、それに伴う周辺事業者の事業展開も巻き込みながら、「まちなか」が中心となって生まれていくことが想定されます。また、IT関連等の業種にあっては、最新の高度な技術も必要になることから、秋田職業能力開発短期大学校等と連携しながら技術取得を支援していきます。

本市では若者、移住者を主な対象とした雇用面、生活面等の相談・支援の受け皿となる拠点を、都市的利便性の高い「まちなか」に構築します。拠点では、本市で活躍している個人、事業者間のネットワーク等を有効的に結び付けていくほか、東京などの大都市圏に暮らす本市出身の若者なども巻き込みながら、共におおだて暮らしの充実を図る仲間を増やしていきます。また、高い教育レベルや豊かな自然環境、充実した医療機関等々、本市の強みを魅力と感ずる子育て世代への情報発信を積極的に行います。

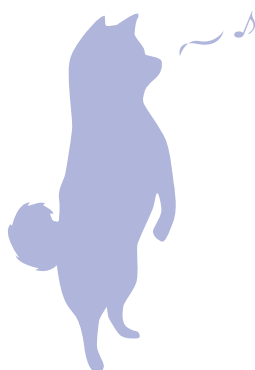
(3) 「おおだて暮らす会」、「おおだて暮らしマイスター」の立ち上げ

● 「おおだて暮らす会」の立ち上げとNPO化

おおだて暮らしの魅力を確認、共有し、共に磨き上げ、助け合う全市的な住民参画の組織として「おおだて暮らす会」の立ち上げ、NPO化を検討します。

● 「おおだて暮らす会」における「おおだて暮らしマイスター」制度の検討

市民主導のおおだて暮らしの魅力の発掘、充実の取り組みの一環として、新たな仕組みとして「おおだて暮らしマイスター」制度を検討します。これは、暮らしの魅力の鍵となる様々な技を持つ市民(=マイスター)を見つけ出し、その技を市民や移住者等々に習得させることで、次世代に技を伝えていく取り組みです。「おおだて暮らす会」で、そのあり方の検討と制度運営を行っていくことを目指します。



(参考)山田集落会の「達人紹介」

達人！紹介

長い人生経験や生活の中から生まれた知恵習慣を会得し、その分野での秀でた技能を途絶えることのないように地域活動の中で頑張っている「達人」を紹介します。

山菜採りの達人



藤嶋 キヌヨさん

田代岳の根曲がりタケノコ採りのエース。
春の山菜、秋のキノコなども直売所には指名
で予約が入ります。
藤嶋さんの山菜類は通信販売でご利用出来ま
す。



赤坂 実さん

春は3月の山菜から11月上旬のキノコまで年
間150日は山に入ります。
春の青物山菜は人気抜群！！
「人間も山の一部分になれば恐怖感はない」
山菜は通信販売をご利用ください。

出典：大館山田集落会 WEB サイト「達人！紹介」より

(参考)リアル過ぎる案山子発起人、釈迦内地区まちづくり協議会会長の伊藤秀夫さん

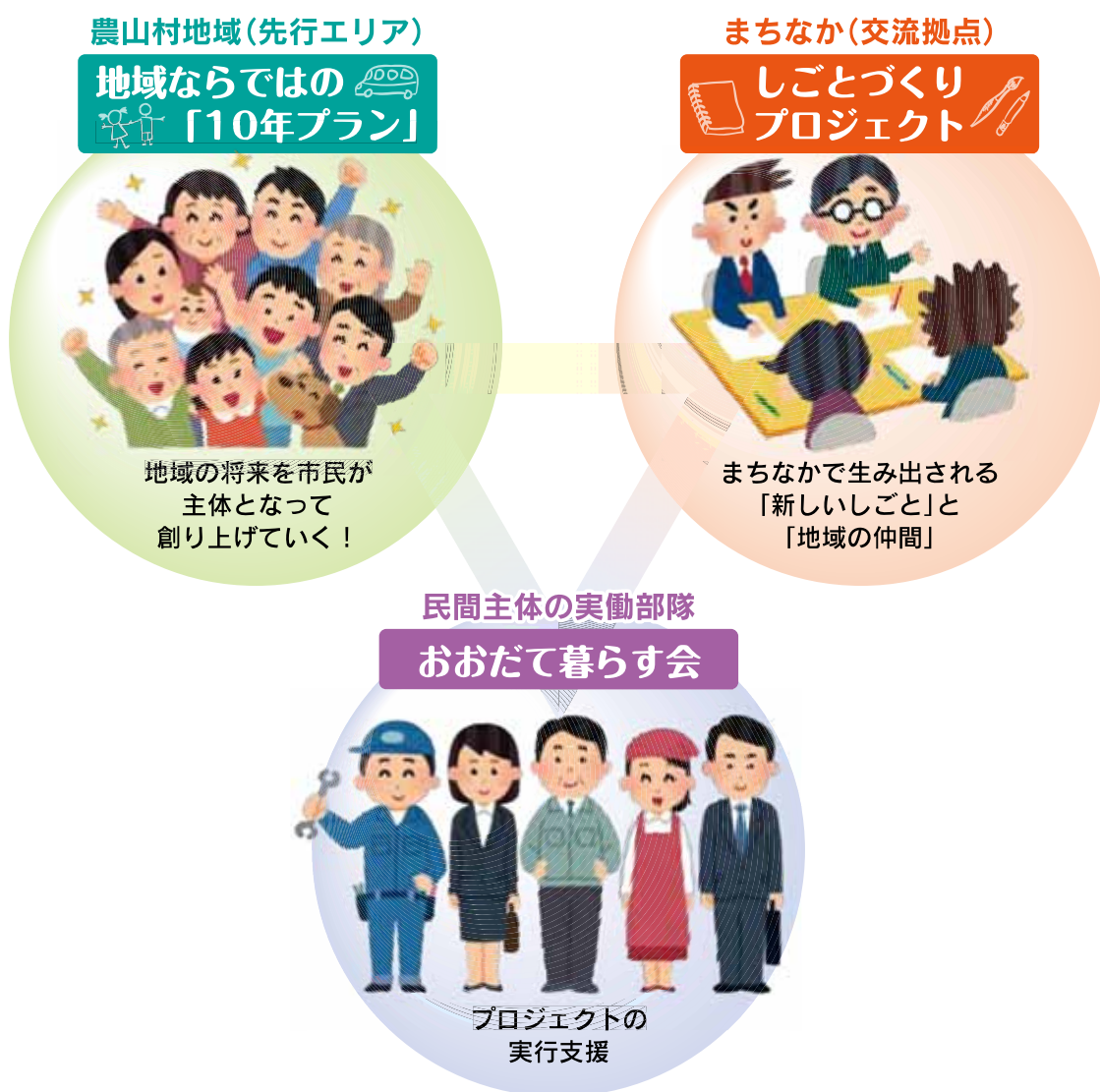


4 当面の進め方

平成 30 年度は、市役所内部の庁内横断組織、官民協働体制、それぞれの構築を目指し、3つの重点プロジェクトについて実証事業を進めていきます。

また、実証事業を進めるにあたっては、市内外の情勢や環境が変化することも予想されることから、必要に応じて事業内容を対応させます。

その実証結果等を踏まえ、平成 31 年度以降の事業化に向けて、具体的な事業内容、推進体制等について随時検討を行い、対応していきます。



<これまでの動き>

(平成 28 年度)

- H 28.11.15 大館版 CCRC 整備庁内検討委員会設置要綱 制定
大館版 CCRC 整備推進協議会設置要綱 制定
- H 28.11.30 第 1 回 庁内検討委員会 (委員長：副市長 委員：7 名)
- H 28.12.22 第 1 回 推進協議会
(会長：小笠原吉張 (秋田職業能力開発短大) 委員：7 名)
- H 29.1.24 第 1 回 庁内検討委員会作業部会
(介護・医療部会、移住促進部会 合同開催)
- H 29.2.21 第 2 回 庁内検討委員会
- H 29.2.27 第 2 回 推進協議会
- H 29.3.23 第 3 回 庁内検討委員会
- H 29.3.27 第 3 回 推進協議会

(平成 29 年度)

- H 30.2.19 第 4 回庁内検討委員会
- H 30.2.27 第 4 回推進協議会
- H 30.3.22 第 5 回庁内検討委員会
- H 30.3.29 第 5 回推進協議会

◎ 大館版CCRC整備推進協議会 委員

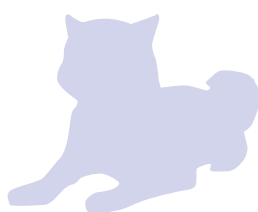
No.	所 属	氏 名	協議会	備 考
1	大館商工会議所 副会頭	石川 崇	副会長	産 業
2	大館北秋商工会 理事	米澤 正貴		産 業
3	大館公共職業安定所 所長 (H29.4.1 から) (H29.3.31 まで)	佐々木 政義		行 政
		花田 幸隆		行 政
4	学校法人ノースアジア大学 理事	保科 幸二		教 育
5	秋田職業能力開発短期大学校 住居環境科 教授	小笠原 吉張	会 長	教 育
6	一般社団法人大館北秋田医師会 副会長	小松 良彦		医 療
7	社会福祉法人大館市社会福祉協議会 副会長	兜森 和夫		福 祉
8	大館市社会福祉法人連絡会	三浦 功達		福 祉

◎ 大館版CCRC整備庁内検討委員会

No.	所 属	氏 名	備 考
1	副市長	名村 伸一	委員長
2	総務部長	北林 武彦	
3	市民部長	成田 政則	
4	福祉部長	安保 透	(H29.4.1 から)
		田村 正行	(H29.3.31 まで)
5	産業部長	一関 雅幸	
6	建設部長	嶋田 均	(H29.4.1 から)
		佐藤 伸雄	(H29.3.31 まで)
7	教育次長	佐々木 修	(H29.4.1 から)
		安保 透	(H29.3.31 まで)
8	総合病院事務局長	斎藤 進	

◎ 大館版CCRC整備庁内検討委員会 作業部会

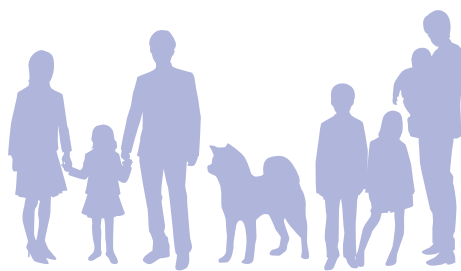
No.	所 属	氏 名	備 考
介護・医療部会			
1	福祉部長寿課 課長	安部 正和	会 長
2	福祉部健康課 課長	佐々木ひとみ	(H29.4.1 から)
		小林 朋子	(H29.3.31 まで)
3	市民部保険課 課長	小林 真奈美	
4	市立総合病院 経営企画課 課長	石戸谷 邦夫	
移住促進部会			
1	産業部移住交流課 課長	佐藤 和浩	会 長
2	福祉部子ども課 課長	成田 学	
3	産業部商工課 課長	長谷部 明博	
4	建設部都市計画課 課長	五十嵐 悟	(H29.4.1 から)
		斉藤 浩悦	(H29.3.31 まで)
5	教育委員会生涯学習課 課長	一関 留美子	
6	教育委員会教育研究所 所長	貝森 逸子	



<参考資料>

本計画と関連する主な計画は以下のとおりです。

- ① 第2次健康おおだて21（平成26年3月策定）
- ② 大館市第7期介護保険事業計画・高齢者福祉計画（素案）（平成30年1月）
- ③ 大館市住生活基本計画（平成23年度改訂）
- ④ 大館市都市計画マスタープラン（平成30年度改訂予定）
- ⑤ 立地適正化計画（平成30年度策定予定）
- ⑥ 大館市地域公共交通網形成計画（平成29年度策定予定）
- ⑦ 大館市過疎地域自立促進計画（平成29年8月一部変更）
- ⑧ 大館市障害者計画／大館市障害福祉計画（素案）
- ⑨ 大館市定住自立圏共生ビジョン（平成22年3月策定）
- ⑩ 大館市人口ビジョン（平成27年12月策定）
- ⑪ 大館市総合戦略（平成27年12月策定）
- ⑫ 大館市病院事業経営改革プラン（平成29年3月策定）



地域と人が多彩に輝く
「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画
（大館版 CCRC 基本計画）

発行・平成30年3月
発行者・大館市

〒017-8555 秋田県大館市字中城20番地
TEL 0186-49-3111(代表) FAX 0186-49-1198
ホームページ <http://www.city.odate.akita.jp/>
E-mail info@city.odate.lg.jp

